

Klaus Dinger + Japandorf , Album "Japandorf"

クラウス・ディンガー + ヤパンドルフ、アルバム『ヤパンドルフ』

Release date: March 25 2013

All songs recorded by Kazuyuki Onouchi in Lilienthal Studio and in Zeeland Studio except 2. 7. 12. by Miki Yui

Mixed by Kazuyuki Onouchi at Lilienthal Studio Düsseldorf 2010,

Mastering by Kai Blankenberg Skyline Tonfabrik 2012

Produced by Klaus Dinger, Co-produced by Kazuyuki Onouchi and Miki Yui

Photography Klaus Dinger and Miki Yui, Kazuyuki Onouchi, Masaki Nakao

Front Cover Hand writing by Klaus Dinger, reworked by Miki Yui

Artwork Walter Schönauer and Miki Yui,

All rights reserved ©+ © Grönland 2013 www.groenland.com

『ヤパンドルフ』ストーリー

クラウス・ディンガー（1946-2008）が核となって創られた、**クラウス・ディンガー + ヤパンドルフ**の最後のアルバム、**『ヤパンドルフ』**が、このたび2013年3月末に**グリーンランド**よりリリースされます。**『ヤパンドルフ』**は、**クラウス・ディンガー + ヤパンドルフ**の2000年以降のプロジェクトとして創られた3枚のアルバムのうち3枚目にあたります。1枚目の**『プリ・ヤパンドルフ』**と2枚目の**『ヴィヴァ リミックス 2010』**は追ってリリースの予定です。

クラウスのマニフェストとも言える、**ラ・デュッセルドルフ**の1978年の名曲、**"CHA CHA 2000"**で歌われたように、1999年、クラウス・ディンガーは新しいプロジェクトとして新世紀に見合った新しくユニークな音楽をつくる為の**コラボレーター**を探していました。その時友人であるアーティストの**ナカオ**の紹介で**カズユキ・オノウチ**（カズ）に出会います。そして2000年、クラウスは普段は閉じられているスタジオの扉を開き、カズとともにアーティストやミュージシャンを招いて自発的セッションを録音、その中にはナカオを通して出会った**デュッセルドルフ**在住の日本人アーティストも数多く参加していました。クラウス曰く、『ナカオがヤパンドルフへの扉を開いた』。こうしてこれらのセッションから新しいプロジェクト、**クラウス・ディンガー + ヤパンドルフ**が始まったのでした。

グループのメンバーは、クラウスをのぞいて全てデュッセルドルフ在住の日本人アーティストとミュージシャン。コラボレーション当初からクラウス、カズ、ナカオ、ミキとサトシは、音楽制作をとおしてだけでなく、オランダのスタジオの自然の中でキャンプやサイクリング等様々な体験を通して語り合い、実験し、協同で時間をかけて曲を発展させてゆく中で徐々に新しい音楽の可能性を広げてゆきます。

このプロジェクトでクラウスは、技術的な意味での演奏家として完成されていない、むしろ芸術のバックグラウンドを持つ人々の集合体と音楽を創り出してゆく道を選んだのでした。この方法は時間がかかるものの、結果として音楽に新鮮なユニークさをもたらしました。『自分の培ってきたアーティストとしての経験を新しい世代に受け継いでゆきたい。』というクラウスは、アルバム**『ヤパンドルフ』**の制作をとおしてふりかかると経営難と借金の山にもかかわらず、いつもグループを気遣い、クリエイティブなプロセスに十分な時間をさき、メンバーのチャレンジやの実験を率先して推奨し、情熱をそそいできました。

音楽、そして歌詞においても、このアルバム**『ヤパンドルフ』**のユニークさはデュッセルドルフの街、特に70年初頭から発展し、世界に知られるデュッセルドルフの日本人街をモチーフにしているところにあります。

アルバム制作の準備は、2000年から2006年までクラウスのデュッセルドルフの空港の近くに位置するリリエントールスタジオと、オランダの海辺の近くにあるゼーランドスタジオにて行われました。そしてアルバム収録曲のほとんどの録音が、2007年の夏から秋の間ゼーランドスタジオにてメンバー全員参加で行われました。その後、クラウス、カズとミキの3人だけで2008年の2月と3月に数度にわたるセッションがおこなわれ、そこで録音された4曲が追加されます。しかしもう少しでアルバムが完成するという矢先、3月21日イースターの金曜日、満月の日にクラウスが突然心不全で亡くなってしまいます。その後、パートナーでもあるミキがクラウス著作の管理とアルバム制作の指揮を受け継ぎ、2010年にカズと共に3枚のアルバム**『プリ・ヤパンドルフ』**、**『ヴィヴァリミックス2010』**と**『ヤパンドルフ』**を完成させたのでした。

このユニークでマジカル、新鮮で美しいアルバム**『ヤパンドルフ』**は、間違いなく**クラウス・ディンガー**の最後のマニフェストです。

曲の紹介

1. "Immermannstrasse " 『インマーマンストラッセ』(2'37)

music by Klaus Dinger, Kazuyuki Onouchi, Satoshi Okamoto 2007 words by Masaki Nakao, Miki Yui 2008
Onouchi dr / Dinger gt bass / Okamoto key / Nakao vo / Yui vo

70年代初頭、日本の企業がヨーロッパ支社を設立したことによって、デュッセルドルフは当時ヨーロッパ最大の日本人コミュニティーへと発展、インマーマン通りはデュッセルドルフ日本人街の中心となりました。クラウスはカズとミキをとおしてインマーマン通りに親しみ、インスパイアされてこの曲をかきはじめました。

2. "Doumo Arigatou" 『ドウモ アリガトウ』 (0'36)

soundscape recorded by Miki in Düsseldorf.

インマーマン通りにある日本の本屋さんでのフィールドレコーディング。

3. "Sketch No. 1_b" 『スケッチNo.1_b』 (4'45)

music by Klaus Dinger, Kazuyuki Onouchi 2008 Onouchi dr bass / Dinger gt

最後となった2008年の冬のセッションにて録音されたスケッチ。

クラウスはこのモチーフを繰り返し演奏し、カズとのセッションの中で曲として構築していった。

4. "Udon" 『ウドン』 (5'09)

music by Klaus Dinger, Kazuyuki Onouchi, Satoshi Okamoto words by Masaki Nakao 2007
Onouchi dr / Dinger gt bass / Okamoto piano / Nakao vo / Yui vo

2000年の夏のある日、クラウスの友人であるナカオがクラウスとカズと共にゼーランドスタジオに滞在、夕飯にウドンをつくりました。その夜テキーラを一本空けた後、皆でスタジオへ入ると、クラウスが演奏し始めると同時に突然マイクにむかって『さあ、これからナカオがウドンについて語ってくれます。』といったのでした。ナカオは驚きつつも全くゼロから自発的に『ウドン』を歌いだしました。それはナカオにとって、そして『ヤバンドルフ』にとっても新しい歌の誕生でした。2000年の録音から7年の制作過程を経て『ウドン』は2007年に完成しました。

5. "Kittelbach Symphony" 『キッテルバッハ交響曲』 (5'26)

music by Klaus Dinger, Kazuyuki Onouchi, Satoshi Okamoto 2007
Onouchi dr / Dinger gt bass / Okamoto piano / Nakao perc / Yui perc

キッテルバッハは、デュッセルドルフの住宅街ウンターラートで育ったクラウスが、幼少期に魚釣りをして遊んだ小川の名前。このキッテルバッハはウンターラートから空港の下を通り、デュッセルドルフの魂の源流とも言えるライン河へと流れ込む小川です。クラウスは前々から好んで、じっくりとあたためるかのようにこの曲のコードをギターで繰り返し奏でていました。

6. "CHA CHA 2008" 『チャ チャ 2008』 (12'35)

music + words by Klaus Dinger 1978/2008 Onouchi dr synth / Dinger gt vo / Yui vo synth

最後となった2008年の冬、カズ（ドラム）とクラウス（ギター）二人でセッション中に、突然クラウスが2000年に二人が良く練習していた曲『チャ・チャ2000』を弾き始めました。クラウス・ティンガーの『チャ・チャ2000』最後の演奏。

7. "Ai" 『愛』 (0'12)

words by Klaus Dinger 2006

このアルバムのカバーになっている日本語の漢字の読みと意味をクラウスがドイツ語で説明しています。

8. "Sketch No.4" 『スケッチNo.4』 (10'10)

music by Klaus Dinger, Kazuyuki Onouchi 2008 Onouchi dr bass / Dinger gt

最後となった2008年の冬のセッションにて録音されたスケッチ。

クラウスはこのモチーフを繰り返し演奏し、カズとのセッションの中で曲として構築していった。

9. "Spacemelo" 『スペースメロ』 (5'35)

music by Klaus Dinger, Kazuyuki Onouchi, Satoshi Okamoto 2007 words by Miki Yui 2008
Onouchi dr / Dinger gt bass / Okamoto key / Yui vo

この曲はもともとミキが彼女のソロアルバム『マギナ』（Hoerenより2010年リリース）の為に2001年に創った曲でした。これを聞いたクラウスが即座に気に入り、ギターでメロディーをひっくり返して同名の全く新しい曲を作り出したことから生まれました。ミキは結局クラウスが亡くなった後に歌詞を完成、ボーカルを録音したのでした。

10. "Karnival" 『カーニバル』 (4'10)

music by Klaus Dinger, Kazuyuki Onouchi words by Klaus Dinger 2008 Onouchi dr / Dinger gt bass vo

この曲のドラムとギターはクラウスが亡くなる約一ヶ月前、最後の2008年の冬のセッションにて録音されました。録音時はこれがカーニバルの曲になるであろうことは全く未知でした。そのしばらく後、ライン河地方で毎年2月に行われる祭りであるカーニバルが終わった頃にクラウスが突然『この曲にボーカルをつける』と言い出します。

最初にクラウドが歌いだした歌詞が『カーニバル！カーニバル！』でびっくり。デュッセルドルフ、ケルン地方で盛大に祝われる祭りへ捧げる、デュッセルドルフの方言で歌われたユーモアあふれる曲。

11. "Osenbe" 『オセンベ』 (2'59)

music and words by Klaus Dinger 2007 Dinger gt / Nakao vo / Yui vo

曲名そのまま、煎餅の歌。ゼーランドスタジオの庭にあるたき火の横で録音された。

12. "Andreaskirche" 『アンドレアス教会』 (0'32)

soundscape recorded by Miki in Düsseldorf.

旧市街の中心にあるアンドレアス教会の鐘の音。クラウドは子供の頃一時期、アンドレアス教会のコーラス隊で歌っていた。

メンバー

クラウド・ディンガー_ ギター、ベース、ボーカル

カズユキ・オノウチ_ ドラム、シンセサイザー、ベース、録音とミキシングエンジニア

サトシ・オカモト_ キーボード、ピアノ

マサキ・ナカオ_ ボーカル、パーカッション

ミキ・ユイ_ ボーカル、パーカッション、シンセサイザー

リンク

www.groenland.com